

三橋 鈴代 看護部長



as human, for human  
PARAMOUNT BED  
HOLDINGS

# ひゅうまんず愛

322



## 〳仕事は楽しく〳 一人ひとりの 看護師が輝ける 人材育成を目指す

三橋鈴代さん

社会福祉法人

函館厚生院

函館中央病院

看護部長

一九六年北海道生まれ。八三年国立函館病院附属看護学校卒、函館中央病院勤務。産婦人科、外科、整形外科、循環器科病棟、整形外科外来を経て、九九年看護師長。二〇〇三年副看護部長。〇七年産業能率大学経営情報学部経営情報学科通信教育課程卒。一〇年より現職。感染管理認定看護師。認定看護管理者。

函館中央病院は、八五年にわたって急性期医療に取り組んできた地域の基幹病院。「心ある医療」を理念に掲げて地域の信頼を集め、特に周産期医療と整形外科では名高いこの病院ひと筋に勤めてきた三橋鈴代さんは、二〇一〇年に看護部長に就任した。

「その時思ったのは、真の意味で患者さんにやさしい看護師を育てたい、ということでした」

看護師の「やさしさ」とは、患者の持つ力を引き出すために手を差し伸べられること。治療は重要だが、最終的に回復への鍵を握るのは患者自身の力だ。

「たとえば整形外科ではリハビリで頑張った分だけ結果が出ます。看護師のひと言でやる気が出たり、逆に失せたりもします。患者さんの状態や心の変化を敏感に読み取り対応することが大切です」

やさしくあるためには、自分に自信がもてるだけの知識や技術の基本をしっかり身につけることが前提だ。何でも言うことを聞き、やってあげることが患者にプラスだとは限らない。自信があれば質問や要望を聞いた上で、できないことは「できない」と言うことも可能になる。

「ですから新人教育は重要です。魅力ある教育システム構築に師長たちと知恵を絞っています」

目指すは、たとえよそへ移っても、

「函館中央病院出身者は素晴らしい」と言われる人材を育てること。看護師の活躍の場が多岐に広がる今、新しい場へ羽ばたこうとする者を「戻りたくなくなったら帰っておいで」の言葉とともに三橋さんは快く送り出している。

「逆に入職する人には、ここではやりたいことに挑戦できますよ、応援しますよと言っています。看護師が自由にものを言い、形にできる風土が当院にはありますから」

自身がここまで続けて来られたのは「環境に恵まれ、人に助けられたから」と控えめに語るが、口調ははつらつとして力強い。

「仕事は楽しく」「有言実行」をモットーに常に前向きな発想を心がけてきたというポジティブな姿勢が、周りの人を動かしてきたのだろう。そんな母を見てきた息子二人は医療関係の職に就いた。うち一人は看護師だそうだ。

多忙な中でもオフにはプールに通い、旅行を楽しむ。定年までの数年間は愛する函館中央病院のために力を尽くし、その後も看護関係の仕事をしつつ、函館の町を活性化する活動に関わりたくと考えている。

「祖母も母も長命なので、私も百歳まで生きるつもりです(笑)」

未来設計図を語る言葉も明るく、どこまでも前向きだ。